

令和5年度 倉敷市地域福祉基金助成事業実施アンケート

助成期間： 令和5年度～ 7年度

団体名： 寺子屋まある

一年活動をしての感想

※参加者に喜んでもらったこと、地域福祉基金からの助成がこういったことに生きていることなどを自由に記載してください。

①実施した内容

- ・見学会の開催。
- ・こども食堂に寺子屋まあるのパンフレットを配布したり、フリースクールにパンフレットを置かせていただいた。
- ・スクールソーシャルワーカーと保健師と繋がり、寺子屋の目的等を説明する機会をつくった。それによって不登校および不登校傾向のある子どもやそのご家族をご紹介して下さった。利用前に利用希望の方の情報やスクールソーシャルワーカーの方針を確認したり、実際利用した時の子どもや保護者の様子をスクールソーシャルワーカーにフィードバックし、共有を行った。
- ・個々のニーズや利用の目的を確認するために、支援者のための個別相談を実施。また利用登録された保護者の希望に応じて1対1の相談枠を設けて対応した。
- ・子どもたちが安心して過ごせるよう、物作り、ゲーム、また自由に過ごせる時間を設けた。その際、おやつ時間を設け、好きなお菓子を選ぶなど楽しい時間を過ごせた。
- ・ちくちくクラブ(手芸クラブ)を開催。気になる製作活動は何か事前に聞きとり、編み物があがったので編み物基礎編を行った。
- ・親の会(おやまあるの会)を開催。フリートークやテーマを決めてトーク。また資料を用いて、ストレス講座を実施した。

②参加者の感想

(保護者より)

- ・発達障害と診断された子どもの関わり方を教えてもらってよかったです。
- ・ここはあたたかい場所だなと感じました。
- ・いつも子どものことを気に掛けてくださりありがとうございます。
- ・何でも聞いてくれるから安心できます。

③地域福祉基金の有用性

- ・小さな団体だが、地域福祉基金をいただいて安定的に開催できるので、利用者や支援者が信頼と安心を感じていた。
- ・立ち上げた年度なので、さまざまな物品が必要であったが、購入できることで安心できる安全な場所を提供できるまでの環境を整えることができた。
- ・手作りが好きな子どもたちが多く、材料をいろいろと買うことができ、その材料を使って作った。出来上がると喜びとなり、ますます挑戦したいと思えて、家族と一緒にその材料を買いに行き、家でも楽しむことができた。そしてできたものを寺子屋に持ってきて、保護者以外の大人と一緒に喜びあえる時間を過ごしたり、他者から認められるという機会を経験できた。

④今後の展開・夢・課題など

- ・不登校及び不登校傾向のある子どもは、外に新たな居場所を作っていくこと自体ハードルが高い。よって利用する子どもの人数は流動的である。一旦繋がっても継続的に参加できるかと言えばそうではない。無理に来ていただく場所ではないので、まずは一步踏み出す場所として有効に使っていただけるよう、環境を整え続けることが大事であるとする。引き続き開催に合わせて子どもたちに声掛けしながら利用のきっかけを作る。またスクールソーシャルワーカーだけでなく、別のルートで参加ができるか、様々な入口を考えていきたい。他機関との連携が必要。またそういった子どもとの関わり方を学び続ける。
- ・今年度できなかった音楽会や展示会は実施したい。子どもによっては特性的に音過敏な子どももいるしそうではない子どももいるので、利用されている子どもの特性に応じて判断する。また展示会は、子どもたちが自分で作った作品に対して他者から評価される場面を作ったり、趣味で集めている物を展示したり発表したりする場面、また作った作品を人に伝えたりする場面を作りたい。
- ・子どもイベントを実施／ご飯会(たこ焼き等)、子ども店長(子どもフリマ)等
- ・勉強会(防災の話、発達障害、子育て、ストレスマネジメント等)
- ・不登校及び不登校傾向の子どもを持つ保護者の方は日々子育てに追われている状態で、不安も高い。保護者の方がそもそも持っている力が発揮できる機会があったり、少しでもほっとしていただけるきっかけが寺子屋まあるでできるように勤めていきたい。例えば、保護者企画やイベントの手伝い、大人のためのストレッチ、物作り、食関連、植物に触れるワーク等。

※このアンケートは、地域福祉基金の助成を受けたことのある団体から、事業開始後5か年度の期間提出していただくものです。